生業の選択と実践における社会的ネットワークの機能
－ザンビア南部州を事例に－

平成 18 年入学
派遣先国：ザンビア共和国
伊藤　千尋

キーワード：社会ネットワーク分析，生業，移動労働，ザンビア

対象とする問題の概要

現在，アフリカをはじめとする途上国の農村部では，農業以外の経済活動が生計の維持・向上に欠かせない手段になっている。そのため本研究では，「生業」を，主たる生計維持手段のみではなく，それを補いときに農業生産を上回るような非農業活動をも含めた広義の意味で使用する。

報告者は 2006 年から，半乾燥地で干ばつが頻繁に起こる農村において調査を行い，都市への移動労働がどのような役割を担っているかを検討してきた。移動労働は，干ばつに起因する食糧不足への対応として行われることが多い。一方，日常の場面では，村内の現金稼得手段へのアクセスとの関係や，個人・世帯が置かれた社会的文脈との関係から選択されていることが明らかになった［Ito 2009］。移動労働の役割や重要性は，世帯ごとにみると他の現金稼特手段へのアクセスと関連して異なっている。このような各生業へのアクセスにみられる差異はどのような要因によって形成されているのだろうか。先行研究では，性別や年齢，教育レベルなどによって参入が規定されることや，資本や財が相対的に少ない貧困層には利益の高い活動に参入できないなどの指摘がなされてきた。しかし，属性や経済的な指標以外にも，人びとの生業活動の選択や実践に差異をもたらす要因を様々な角度から検討する必要がある。

研究目的

移動労働の理由を説明するインフォーマントの言説からは，地域内の一部の富裕層が提供する「ピースワーク」と呼ばれる賃金労働を安定的に得られるかどうかと，都市に働きに出るかどうかを，農民たちは相対的に選択していることが示唆された。ピースワークや近郊の都市への移動労働は，前者の場合は地域内の富裕層，後者の場合は都市の親族や知人など，社会関係が多くの事例において影響している。

そこで本研究では，社会ネットワーク分析[1]によって，個人のもつ社会ネットワークや地域内におけるネットワークの構造が，農民の生業の選択・実践にどのように影響しているかを明らかにすることを目的とした。今回は，特にピースワークと移動労働に着目した。

写真 1　調査地周辺の景観（乾季）

方法

調査は，ザンビア南部州シアボンガ県に位置するルシト地区において 2010 年 6 月から 8 月までの間に行った。調査村の世帯主と配偶者を中心に 87 名を対象とした聞き取り調査を行った。聞き取りは，対象者が困窮時に相談する人・助けを求める人，また実際に助けてくれる人は誰か，という内容である。農村ではほとんどの人がなんらかの血縁関係や地縁関係にあり，知り合いのネットワークは際限なく広がっている。そのため，本研究では，困窮時に支援を求められるような信頼関係にある人，を特定し，彼らの関係がピースワークと移

[1] 社会ネットワーク論では，人と人，モノや企業など様々な行為主体と，行為者間を結ぶ紐帯を「ネットワーク」という形で表現し，ネットワーク上に現れてくる特性（つながりの構造）に関わる現象，ネットワークに埋め込まれた人びとの意識・行動に関わる現象を解き明かすことを主たる関心としている［平松ほか 2010］。

動労働の選択・実践にどのように関わっているかを検討することにした。

本研究では，調査対象者に名前を挙げてもらうネームジェネレーター方式を採用した。理由は，調査村のみに限定したリストを作成した場合，彼らの地域横断的なネットワークが抽出できないためである。人数は社会ネットワーク分析で一般的に用いられる 3−5 名の基準を参考に，5 名までとした [2]［Cf. 平松ほか 2010］。なお，分析には大規模ネットワーク分析ツールpajek[3]を使用した。

フィールドワークから得られた知見について

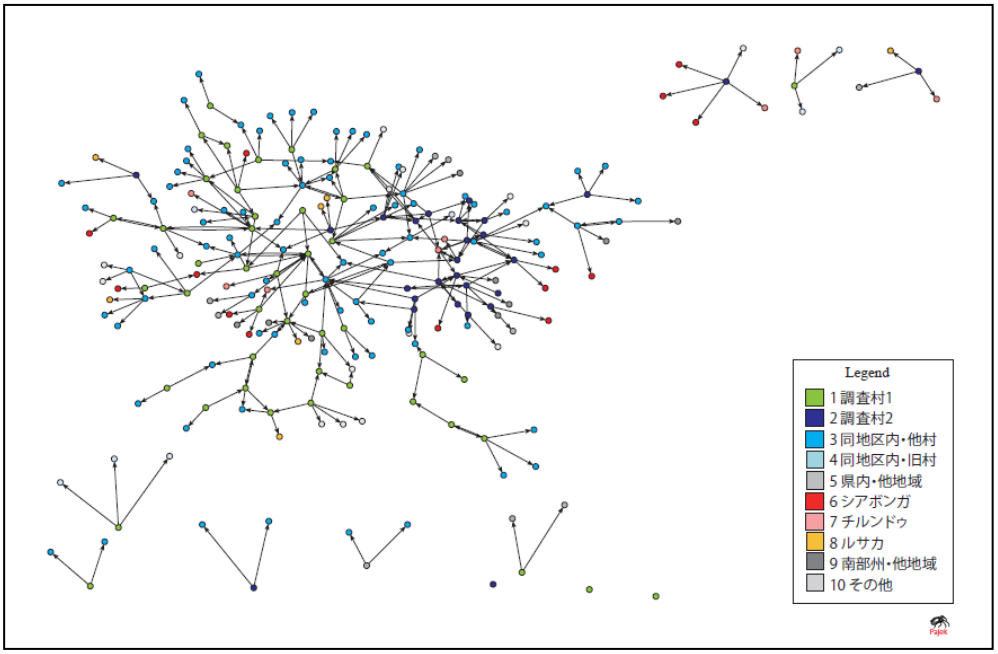

図 1 相談・信頼ネットワークの全体像と対象者の居住地域

*同地区内・旧村：調査村一帯はダム建設のため 1958 年に移住させられてできた村である。そのため調査村の住民が移住してくる以前からこの地域に住んでいた人びとの居住区を旧村と表現している。

図 1 は，聞き取りから得られた対象者全員のネットワーク（以下：相談・信頼ネットワーク）をひとつにまとめて描画したものである。各点は，人を表しており，線は点の間に関係があることを示している。線の出発点となっているのが聞き取りを行ったインフォーマント 87 名で，それ以外に名前が挙げられたのは 141 名であり，図中には全部で 228 の点が含まれている。点の色は，居住地域を示しており，緑と青で示した点が調査対象村居住者（インフォーマント）である。

まず，このネットワークには，いくつかのサブグループが形成されていることがわかる。左上に位置する一番大きなサブグループには 149 個の点が含まれており，ほとんどのインフォーマントおよび彼らの信頼・相談相手は他の人のネットワークとも連結し，最大のコンポーネント [4]を形成している。多くが，同じ村や，水色で示した同地区内にある他の村に居住する人びとの名前を挙げた。

また，他のどの点とも連結していない孤立した点が 3 つ存在している。これは，質問に該当する相手が全くいないと答えたインフォーマントであり，かつ他のインフォーマントから相談・信頼相手として名前が挙げられていないためである。図 2 は，信頼・相談ネットワークにおける入次数の分布を示したものである。ほとんどの人が 1 人または 2 人からのみ名前を挙げられる一方で，約 4%の人が 4 人以上から信頼・相談相手として挙げられており，ネットワークにおける構造的威信を獲得している。

---

[2] 質問の際，インフォーマントには，名前を挙げてもらう 5 名に 1）現在生計を共にする世帯メンバーは含むことができない，2）他地域や都市に居住する人も含むことができる，という条件を説明している。質問文は現地語（トンガ語）が母語話者である学校教員の協力を得て作成した。聞き取りは，通訳同席のもと，報告者が質問をする形式で行った。

[3] http://vlado.fmf.uni-lj.si/pub/networks/pajek/

[4] コンポーネントとは，各点のペアがセミパス（点 u から始まり点 v で終わる，線の方向性を考慮に入れないひと続きの線）で連結している最大のサブネットワークを意味する［デノーイほか 2009］。

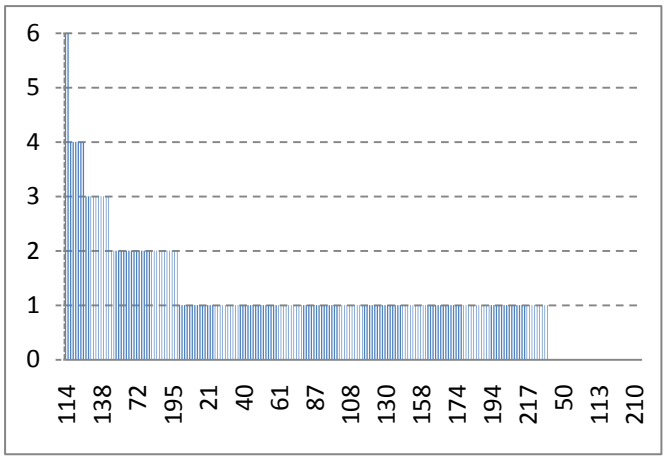

図 2 信頼・相談ネットワークにおける入次数の分布 N=228
*縦軸は入次数，横軸は各インフォーマントの ID を示している。

一方，地域内だけにとどまらない関係性の広がりも見られる。図 1 の凡例中，8 ルサカはザンビアの首都であり，調査地から車で 3 時間ほどとアクセスがよい。6 シアボンガや 7 チルンドゥは，調査地から 1 時間ほどで行くことができ，人口 1 万人程度の近郊中小都市である。図 1 をみると，赤やピンクで示した近郊中小都市居住者を信頼・相談の相手として挙げているインフォーマントが存在していることがわかる。図 3 は各インフォーマントの移動労働の経験回数を点の大きさとして表したものである。点の大きさが大きいほど，移動労働の経験回数が多いことを示している。図中の右上に位置する，孤立した 3 つのサブネットワークのうち，右から 3 番目は S.S 氏（IDNo.205）の信頼・相談ネットワークである。S.S 氏は，移動労働の経験回数が 5 回であり，図 3 では他の点よりも大きく示されている。図 1 もあわせて見ると，S.S 氏は，信頼・相談相手として，農村地域内ではなく近郊都市に居住する親族の名前を 5 人挙げている。そして，実際に彼が都市で仕事を得る際に，このネットワーク内の人物が仕事の紹介を行っている。

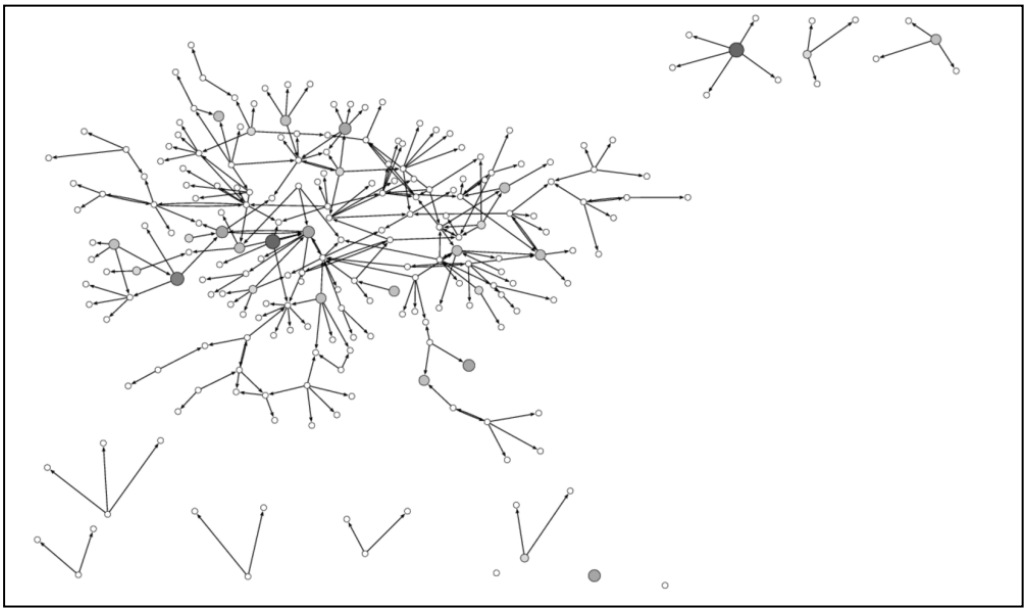

図 3 相談・信頼ネットワークと対象者の移動労働経験

調査村からの移動労働の総事例数のなかで，シアボンガとチルンドゥは約 6 割を占め，地理的な近接性や親族・知人の多さ，非熟練労働への需要などの理由から比較的容易に行える移動労働として調査地の社会に組み込まれていることが明らかになっている。都市の出稼ぎ労働者や長期滞在者から定期的に送金を受け取っている世帯は，調査村では稀である。しかし，この調査結果からは，都市居住者は困窮時に現金や食糧を頼ることのできる相手として一部の世帯には重要であることが明らかになった。また S.S 氏の事例からは，個人のもつネットワークの特徴によって，都市への移動がより活発化することが示唆された。

調査村のように，幹線道路沿いに位置し都市部と密接に関わる地域においては，人びとの経済活動の選択肢は今後も日々変化していくと考えられる。このようななかで，情報やコネをつかむことは新たな生業活動への参入を促進する。そのため，本研究のような社会ネットワークの調査は資源としての社会ネットワークを理解するために重要であると考えられる。

今後の展開・反省点

今回の報告書では，調査から得られた全体ネットワークの概要と移動労働との関係を示した。今後は，これまでの調査で得られたインフォーマントや各々が属する世帯レベルでの社会・経済的情報と繋ぎあわせ，さらに分析を進めていきたい。特に，農村地域内で行われる賃金労働へのアクセスが，入次数の高い人物や，媒介中心性の高い人物とのつながりによってどのように異なるかについて明らかにしたい。また，今回の分析は個人単位で行っているが，今後は世帯単位での分析も行ないたい。そして今後は，継続的な調査を行うことによって，時間による社会関係の変化とそれにともなう対象者の生業活動の変化の関連性について明らかにしていきたい。

引用文献

デノーイ，ウオウター・ムルヴァル，アンドレイ・バタゲーリ，ヴラディミール．2009.『Pajek を活用した社会ネットワーク分析』安田雪監訳．東京電機大学出版局.

平松闊・鵜飼孝造・宮垣元・星敦士．2010.『社会ネットワークのリサーチメソッド「つながり」を調査する』ミネルヴァ書房.

Chihiro Ito.2009.”Re-thinking Labour Migration in Relation to Livelihood Diversity in African Rural Area: A Case Study in Southern Province, Zambia.” Working Paper on Social-Ecological Resilience Series 2009-005. Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.